

エボラ・ウィルスの世界的蔓延：「大量破壊兵器」？

By Joachim Hagopian

Global Research, 6 August 6, 2014 (re. September 20, 2014)



エボラ出血熱の今年初めの発生は、2月、西アフリカのギニアでのことだった。その後それはリベリアへ飛び火し、更にシエラ・レオネへ、現在はナイジェリアまで広がっている。感染したかもしれない3万人の追跡調査によっては、イギリスに飛んだかもしれず、現在、ナイジェリアで死んだ米人1名と、ここアメリカにいる2名の感染者を合わせると、エボラは地球規模の、数百万を殺す可能性のある疫病に急速に発展している。

先週発表されたばかりの世界保健機構（WHO）の統計によれば、西アフリカで今年これまでに、総計1201の患者のうち、少なくとも672人が死んでいる。しかしその7日後に死者数は887に急増し、最近数日だけで200以上の死者を数えた（8月初旬）。

潜伏期間が10日ほど続き、感染者はどんな病気の自覚もない場合があるので、このウィルスは高い感染力をもつ。それから典型的なインフルエンザの熱の症状が現れ、ウィルスが急速に体の中に広がって嘔吐するようになり、それが始まって数日で死ぬことが多い。犠牲者は、最終段階では体のあらゆる穴から出血することがあり、文字通り体内出血によって死ぬ。それは、奇怪なサイエンス・フィクションの悪夢が実現したかのような特徴をもっている。

標準的な治療法はない（ただ感染者を引き離して、リスクの高い場合は隔離病棟に入れる以外には）。公的なワクチンもまだできていない。ただロイター通信の報告では、米政府は早ければ来月には、サルによって効果を確かめたうえで、エボラ・ワクチンを人間に試みる予

定だという。米国立衛生研究所（NIH）と食品医薬品局（FDA）では、「可能な限り速やかに」ワクチン実験を行う予定である。

国防省と疾病予防管理センター（CDC）は、エボラ・ウィルスを生物兵器用として極秘扱いしている。人間の感染者の 90%までが短時日のうちに死ぬと報告されているから、それは大量破壊兵器として、非常に現実的な、きわめて強力な潜在能力をもっている。

ここ連日、エボラ熱は異なった場所で発生し続けていて、その 8 つのケースは、ナイジェリアというアフリカで最も人口の多い国に広がり、現在、それ以上のいくつかは、香港やサウジアラビアのそれらしいケースを含めて、アフリカ大陸を越えて発見されている。西アフリカからの飛行機から降りたばかりの、少なくとも他に 6 件の症例が、現在、ニューヨーク、フィラデルフィア、オハイオのいくつかの場所で、ひそかにテストを受けている。世界に広がる発生のニュースがこのように続けば、それは飛行機でひと飛びの場所だという大衆の恐怖とパニックが起こるのは当然で、現在、世界の、億とは言わないまでも何百万という人々が、このアフリカの流行病が、急速に世界の隅々に浸透する疫病になるかもしれないと考えている。もちろんこうした心配を小さくしようとして、WHO や米政府は、ここ北アメリカの市民に対しては、そのリスクは小さいと懸命に言い続けている。

この恐ろしい病気に罹った最初の二人のアメリカ人が、現在米国内にいるというのは偶然なのだろうか？ 歴史上最も恐ろしいと言われるこの病気が、すでに今年、ほとんど 900 人の西アフリカ住民を殺したのは偶然なのだろうか？（数日前に 200 名以上追加された。）オバマ大統領がついに先日、呼吸器病をもつアメリカ市民を、彼らの意志に反して一斉拘束する権限を与える執行命令に署名したのは、偶然の一致だろうか？ FEMA（連邦緊急管理局）の一斉検挙がロサンゼルスで始まりそうだというのは偶然の一致だろうか？ これはホームレスの人々を鼻先のニンジンで騙して、あの FEMA の強制収容所に囲い込もうとするもので、我々が聞いていたカラの収容所はいよいよ役立つようになる。前世期を通じて、米政府と軍は、地上で最も破壊的な力を追及するための、病的な、最先端の実験として、最も暗黒の、最も不気味な領域にまで下りていった悪名高い実績記録をもっている。それは、拷問のようなマインド・コントロールから、何も気づいていない兵士を、意志をもたないモルモットとして、不法な欺瞞的な薬物実験に使うこと、人を殺す暴風や干ばつを作り出すための武器として、極端な気象の変動を操作すること、潜在的に致死的な電磁波を用いて、心臓発作を起こさせる可能性のあるやり方で、人の心や振舞いを変えたり乱したりすることまで、多岐にわたっている。

ここ何十年にも及んで米軍は、多くの高度に秘密の黒い作戦プログラムを組織的に実行してきた——何ひとつ疑わないアメリカ国民の頭上に、ケムトレイル散布として毒性の金属

を降らせることから、たいていはセント・ルイスあたりの貧しい都市のアフリカ系米人をモルモットに使用して、屋上から放射性物質を一面に撒き散らし、人間が大量の放射能にどれくらい耐えられるかを見ることに至るまで。また 1950 年代から 1960 年代初めにかけて、広範囲な原爆テストがネバダ - ユタ砂漠で行われ、今日に至るまで南太平洋で兵器の爆発実験が行われているが、それらはすべて風下に、夢にもそんなことを知らない無防備の犠牲者がいることを知った上でのことだった。1972 年まで 40 年間、アラバマ州 Tuskegee の 400 人の貧しい黒人の小作人たちが、故意に梅毒を植え付けられ、その効果の研究に使われた。それでも足りないというように、米政府の科学者たちは 1940 年代に、グアテマラの人々を、ペニシリンの効果実験のため、やはり梅毒に感染させた。この極秘の、高度に非倫理的かつ不法な、科学を習慣的に悪用する悪辣な研究は、しばしばトップの大学で行われ、これは無数の納税者のお金で、優秀なしかし捻じ曲がった科学者たちが、ナチスのメンゲレ博士式の悪夢のような実験を、罪のない人民に対して行ったわけだが、こんなことは特別目新しいことではない。当然のことだが、それは一般人の目や知識からほとんど隠され秘密にされてきた。しかし最近、十分に具体的な証拠が明らかにされて、アメリカ軍が恒常的に、自国の市民に対してさえ、いかに意志的に悪魔的なことをやってきたかがわかってきた。

あまり隠されてはいないが、これよりはるかに破壊的な悪行が、アメリカの武装軍によって世界各地の市民に対して行われてきた。日本の人口密度の高い都市として、広島と長崎を無慈悲に破壊したのが、最初の意図された人間モルモットの例であった。しかもトルーマン大統領は、日本がすでにほとんど降伏していたのを知りながら、これを命令した。しかしエノーラ・ゲイが原子爆弾を落とす前から、アメリカは化学戦を用いており、ベトナム戦争のときには、モンサント社製のナパーム爆弾によって何十万という東南アジア人を殺した。イラクでは白リン弾 (white phosphorus) が使われたが、これは人間の肉を溶かすものだった。そしてイスラエルは、それをパレスチナ人に対して使っている。何百万という罪のない人々が、これら最も重い人道に対する国際的犯罪によって殺され、これがアメリカとイスラエルの手によって何十年と続きながら、全く罪を問われていない。

だから、エボラ・ウィルスの強力に致死的なサンプルを集めて生物兵器が開発されたとしても、驚くことではない。あるいは、このすでに長い広範囲な米軍の歴史で、このようにマンモス的な前例のないスケールで、人間の殺戮が繰り返されてきたことを考えるなら、エボラがもう一つの高度に破壊的な武器として軍事目的に使われたとしても、それほどショッキングなことではない——もしそれが、いなくてもいい現在の地球人口を、大きく減らすのに役立つならば。

今年の最初のエボラ出血熱の発生は、西アフリカのギニア共和国で 2 月に起こった。1976 年には、エボラの発生は最初ザイール (現在、コンゴ共和国) から始まり、同時にスーダン

でも起こった——別種のウィルスだったが。これがザイールでは、318人のそうと診断された患者のうち280人が死に（88%の死亡率）、スーダンでは284のうち151人が死んだ（53%死亡率）。このような最初の発生以来ほとんど40年間、この病気についてほとんど何も学ばれなかった。このウィルスの起源は、ネズミ、コウモリ、サルといった、多くのアフリカ人が主食や副食とする、感染した動物だと考えられている。いわゆる森林動物はウィルスを運ぶことがある。だから人間は、動物から人間への感染の危険があり、そしてもちろん今は、ほとんどの場合体液の交換によって、人間から人間にうつる。

この感染する、不治の、死亡率の高い、眼から出血するという特徴をもった病気は、世界中の人々に、特にこれまで最も蔓延したのものとして、恐怖の反応を起こさせている。CDCもWHOもパニックを起こす必要はないと強調している——毎年インフルエンザで死ぬ人の数は、40年前にエボラがアフリカで始まって以来、それで死んだ2000以下の死者より、はるかに多いと彼らは言う。

その総計は、これまで2586人のうち1717人の死が報告されていて、エボラと診断された3人に2人が、それで死ぬことを示している。それとは対照的に、50万人が毎年インフルエンザで死んでおり、これまでのその総計は1900万人になると信じられている。

最近数週の、エボラについての主流メディアの増加する報道は、一つには明らかに、民衆に恐怖を与えようとする政府のプロパガンダであり、それはおそらく、ナンバーワンの民族浄化同盟国イスラエルの熱気に便乗している。わが安全保障国家の特徴は、恐怖戦術によって一般民衆に対する統制力を強化するために、次々と危機をねつ造し誇張することである。それはひたすら警察国家の絶対的権威と権力を強化する。これに国家スポンサーによる宣伝道具として、過度に煽り立てるメディアの傾向を加えるならば、その結果生ずるパニックと混乱を鎮静化するために、安全保障の強制力を活性化する、十分な口実が生ずるだろう。それを知った上で、すべての国の市民たちは、偶然によるものだろうと、不気味な陰謀によるものだろうと、もし実際に自分の近所でエボラ流行熱が発生したら、現実的に地球的危険があることを心得ておく必要がある。

エボラ熱の誇張宣伝と完全に歩調を合わせて、オバマによるごく最近の執行命令の署名があった。“隔離可能な感染する病気の改定リスト”は、「感染する恐れのある病気の導入、その感染による移動や拡散を防止するために、個人の拘束、拘留、また条件付き釈放」を許している。これはジョージ・ブッシュの2003年の“執行命令13295号”につけ加えられたものである。これは誰でも、気管支炎やCOPD（慢性閉塞性肺疾患）や肺炎を含めて、呼吸器に問題のある人々は、潜在的にいつでも拘束され得ることを意味する。善意を装って人々を保護するかのような、この偽情報は、全体主義的警察国家がアメリカの民衆に絞め技をかけ

るための欺瞞のエサである。週ごとに米政府は、自国の内部で、次のねつ造された危機によって都合のよい条件を段階的に作り出しており、究極的に、戒厳令とアメリカ市民の FEMA による一斉逮捕への道を開こうとしている。これら一番新しい展開によって、我々はまた一歩近づいた。

CDC (疾病予防管理センター) の権威のもとに、呼吸器に問題をもつ人々を、隔離という規約に従って、彼らの意志に反して拘束し拘留できるだけではない。CDC は、どんな健康なアメリカ人でも、感染者と接触した可能性があるという単なる疑いを根拠に、拘束することができる」と主張している。個人を拘束する基準をこのように緩めることは、お上 (Big Brother) がほとんど誰でも捕まえられる水門を開くことである。

呼吸器に問題のある人々と共に、もう一つの最近の関連ニュースによると、ロサンゼルスホームレスの人々を拘束し、RFID チップを植え込んだ上で FEMA の強制収容所に閉じ込めるという最近の計画が浮上している。彼らは食事の約束で釣られるだろう。ナチスの戦前の一斉検挙に対する多くのドイツ市民の受動的態度についての、Martin Niemöller の有名な詩が頭に浮かんでくる——「彼らがホームレスを逮捕しにきたとき、私は何も言わなかった——私はホームレスでなかったから。」オーウェル流の悪夢が公的に始まっている。

8月初め、西アフリカで患者を治療していてエボラ熱に感染した米人ドクター Kent Brantly 博士は、アトランタに着くなり、警察に護送されて CDC の本拠地であるエモリー大学病院に連れ去られた。今日は、別の医療従事者 Nancy Writebol が特別機で到着し、エモリー病院に運ばれた。彼らの到着は、エボラ患者の米国入国の最初の例である。彼らは二人ともリベリアで実験的な薬を与えられ、病状は快方に向かっているように見えた。先週木曜日、この薬を与えられる前には、このドクターは死にそうだったが、今はすっかり体力を取り戻して、アトランタでは自分で病院へ歩いて行ったと話した。この新しい薬は ZMapp と呼ばれ、エボラに罹ったサルの治療でよい兆しが見えた後で、サンディエゴのバイオテック会社 Mapp Biopharmaceutical Inc. が開発したものである。

間違いなく米政府は、潜在的に大製薬会社の利益となるワクチン開発と、もう一つは、生物戦による地球人口減らしの都合のいい道具として“最終決着”に使えるという点で、エボラ熱に大いに期待をしている。利益と言えば、抗エボラ出血熱剤を開発している会社 Tekmira Pharmaceuticals は、もう一つの殺人会社 Monsanto から前金で 150 万ドルを受け取ったばかりである。過去においてテクミラ社は、防衛省 (以前は正しく戦争省と呼ばれていた) から、1 億 4000 万ドルの契約事業を与えられたこともある。2010 年に CDC は、2007 年にウガンダで起こって 116 人の感染者のうち 39 人が死んだ、エボラ・ウィルス品種に関する特許を、現実にて得ている。この CDC 特許は、“EboBun”と呼ばれるウガンダ発の特定の

エボラ品種の所有に関わるもので、特許ナンバーCA2741523A1をもち、ここで見ることができる。

ある製品——この場合、高度に致死的な伝染病——について特許を申請することで、米政府は、この“発明品”から排他的に利益を得る、政府の強制的独占権を得ているのである。**EboBun** 特許の要約セクションには、米政府は、この特許を所有することによって、他のエボラ・ウィルス株で70%かそれ以上の類似点をもつものすべてにも、完全な法的コントロールと所有権を持つと規定されている。このように、エボラのこの恐ろしい西アフリカ株は、やがてアメリカ政府のバイオ戦争において、最新の貴重な財産となるであろう。

二人のエボラに感染したアメリカ人を、西アフリカからCDCに連れ戻すことには、彼らの回復の最大の努力をするということ以外に、もう一つのあまりにも明らかな目的として、彼らのエボラ細胞を取り出して、人類の知る最も恐ろしいエボラ株（品種）に対する特許を取るのに利用することがある。アフリカの現地でエボラ・ウィルスに感染した患者の治療に当たっていた伝染病の専門家 **Bob Arnot** 博士は、最近テレビに出演し、「彼らをここへ連れてくる医学的な理由は全くない」と主張していた。このような、感染者から盗まれた高度な感染力をもつ病気を独占的に所有するという主張は、そのこと自体が、侵略的・悪用的な不気味さをもっている。もちろんそれは赤旗の警告と、そのウィルスが現実にもどのように使われるか、正しく言えば悪用されるかの疑惑を掻き立てるものである。果たして、米政府は時を移さず、潜在的に世界で最も強力な恐ろしい生物兵器としての、その軍事利用を探究し始めた。

シエラ・レオネは最近、Tulane 大学と、メリーランド州 **Fort Detrick** に本拠をおくバイオ戦争研究センターである米軍伝染病医学研究所 (USAMRIID)からの、すべてのアメリカ人エボラ研究者を追い出した。その出来事の少し前、3人の看護婦がこのウィルスで死んで2週間後に、感染のひどい **Kenema** 地区で働いていたシエラ・レオネの看護婦たちが、政府の厚生省の、この急速に広がっている流行病の扱い方が間違っていると非難して、現実にストライキに入った。彼らが訴えたのは、医療従事者が適切に保護されていないこと、また彼らは、アメリカのバイオ戦争チームが、最近の死亡数の急増に関わっているという疑惑をもっていることだった。そこでシエラ・レオネ政府は、アメリカ人がエボラ熱テストと称して彼らの市民を感染させているという地方の民衆の高まる怒りの声を受けて、ケネマにあるアメリカのバイオ戦争研究所を移動させるように命じた。厚生省のフェイスブック・ページは、アメリカ人研究者たちの使っていた診断のための器具はニセモノで、ニセの結果を出していたと結論づけている。彼らは法的観点からこう質問している、「トゥレーン大学の研究者たちは、公衆の健康を危険にさらす何かをしていたのだろうか？」そのあいだも、シエラ・レオネのその地区の病院で感染し死ぬ人たちの数が、地上の他のどんな地域におけるより

も、増えている。

謎に輪をかけて、米主流メディアは、シエラ・レオネの主導的ドクターがエボラ熱で死んだと報じたが、その厚生省はそれを否定している。WHO（世界保健機構）はこの医療業務の危機に便乗して、大規模なワクチン接種（感染もありうる）と隔離キャンペーンを始めるために、国連安全保障軍を配備するようプレッシャーをかけている。これに応じて、シエラ・レオネ軍の 700 人の兵士が配備されて、道路ブロックを築いて市民を隔離するのを助け、医療関係者だけが最も感染のひどい地域に入れるようにしている。リベリアの軍隊もまた、その地での発生を封じ込めるために送られている。

厚生大臣はまた、すべての新しい確認された患者は Kailahun 病院に収容され治療されることになり、アメリカのバイオ戦争研究者がいた、そして確認された症例の率が最近跳ね上がっているケネマへは送らないと言明した。シエラ・レオネ政府もまた、CDC は、バイオ戦争研究所の結果を分析のためにアフリカの政府に送るべきだと言い、米研究グループは取り調べられるかもしれないことを匂わせている。

フランスの慈善組織「国境なき医師団」に雇用されているあるドクターは、アメリカ人たちが研究していたケネマの病院では殺されるだろうと思った地方の人々の考えは、この病院がこの流行病の中心になったことを考えれば、「十分理解できる」とさえ言っている。WHO と CDC の両方の文書とも、歴史的にエボラ患者のほとんどがケネマ病院で死んでいて、これは医療スタッフの疑わしい活動のためであることを認めている。これは正確に診断された患者でなく、軍のバイオ戦争研究チームが実は彼らに感染させたかもしれないことを、認めているように聞こえる。おそらくシエラ・レオネの人民を、彼らの実験のためのモルモットとして使ったということであろう。

遡って 2009 年には、トゥレーン大学のエボラ研究者たちは、シエラ・レオネで使われたと言われる検出器具開発の資金として、NIH から 700 万ドル以上を受け取っている。2007 年にトゥレーン大学から発行された「新しいテストが生物テロの脅威の発見に向かって進んでいる」という題の論文は、それより前に 380 万ドルの研究費を NIH から受けたと誇らしげに述べ、これが「バイオ・テロ防衛において、恐ろしいウイルス病を防ぐのに助けとなる診断テスト器具」の早い時期の開発の成功をもたらしたと言っている。この文書は、エボラ・バイオ戦争研究チームが、シエラ・レオネの人民に対して、彼らが最近、究極的に追放されるまで少なくとも 7 年間、この器具によって実験を行っていたことを指摘している。

もう一つ驚くべき展開があつて、エボラ患者治療の幅広い経験をもつある悪者ドクターが、匿名を使って、エボラの簡単な治療法と彼が呼ぶもの——大量のビタミン C——を発表し

た。壊血病に似ているが、しかしはるかにそれ以上に、エボラ・ウィルスは体中のすべてのビタミン C を枯渇させ、血液から酸素を奪い、これが毛細血管を破って体内出血を引き起こし、患者を出血で死なせることになる。このエボラの専門家は、ワクチンの必要などないと警告し、シエラ・レオネのエボラの発生は、実はバイオ戦争研究チームの起こしたものだとの見解を加えている。このドクターは、1日 50 万ミリグラムのビタミン C の大量投与を勧めるが、これは治療法でなく、免疫システムを高めて、体内のエボラ・ウィルスを殺す力を与えるものだと強調している。

こうした物語の展開で最も確かなことは、地球規模の不安定化を狙う出来事の急速な展開、見えてくるねつ造した非難や厚かましいウソであって、それらは主流メディアや米政府のプロパガンダ工場から毎日、流れ出ているものである。

しかしこれよりもっと確からしい、現実の真理をもっと詳しく調べてみるならば、これらの同時的出来事の多くが緊密に関係しており、点と点をつなぎ合わせるだけで、真実を話そうとするすべての人々にいま宣戦布告している、自暴自棄の安全保障国家の邪悪なアジェンダが、更にきついコントロールを押し進めようとしていることがわかってくる。

(出所を示す無数のリンクが設けてあるが、すべて省略した。)

Joachim Hagopian は、ウェストポイントの卒業生、元米陸軍士官。 *Don't Let the Bastards Getcha Down* という独自の軍隊経験に基づく (未刊の) 原稿を書いている。それはアメリカの国際関係、リーダーシップ、国家安全保障などに焦点を当てている。彼は臨床心理学で修士学位を獲得し、免許を持つセラピストとして、精神疾患分野で四半世紀以上働いてきた。現在は著書の執筆に専念している。